

令和 7 年 6 月 24 日現在

機関番号：64303

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2024

課題番号：19K15931

研究課題名（和文）The role of informal food practices in convivial post-growth rural lifestyles

研究課題名（英文）The role of informal food practices in convivial post-growth rural lifestyles

研究代表者

Steven McGreevy (MCGREEVY, Steven)

総合地球環境学研究所・研究部・客員准教授

研究者番号：10700172

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：このプロジェクトでは、インフォーマルな食習慣がどのように持続し、進化し、健康と幸福に貢献し、地域の食経済を形成しているのかを調査した。フィールドワーク、空間マッピング、オンライン調査、概念的・理論的イノベーション、フューチャーリング方法、政策開発メソッドを駆使して、日本、タイ、台湾、ドイツ、イタリアの地方と都市における現在と未来の共生的ライフスタイルにおけるインフォーマルな食習慣の役割を探求し、理解し、理論化した。主な成果としては、複数の論文発表、学術研究会議での発表、農村部や都市部のコミュニティにおけるインフォーマルな食習慣をより定着させるための現場での活動などが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
広範なフィールドワーク、事例研究、空間マッピングを通じて、本プロジェクトは、インフォーマルな食の実践（IFP）が農村および都市の景観、緑地、持続可能なライフスタイルの再生に重要な役割を果たしていることを明らかにした。IFPはまた、将来の食料システムをどのように形成すべきかという農村・都市住民の考えにおいても価値あるものとされている。最終的には、ポスト成長型の持続可能な食料システムには、地域に根ざし、自律的で、都市と農村に分散された「食のコモンズ」を構築するための多様な原則を取り入れたIFPの広範な導入が含まれる。

研究成果の概要（英文）：The project investigated the ways in which informal food practices persist, evolve, contribute to health and well being, and form local food economies. Extensive fieldwork, spatial mapping, online surveys, conceptual and theoretical innovation, futures methods, and policy development methods were used to explore, understand, and theorize the role of informal food practices in current and future convivial lifestyles in rural and urban places in Japan, Thailand, Taiwan, Germany, and Italy. Major achievements include multiple published papers, presentations at academic research conferences, as well as on the ground action to better establish informal food practices in rural and urban communities.

研究分野：Environmental sociology

キーワード：Informal food Social practice Convivial lifestyles Sustainability Rural livelihoods

## 1. 研究開始当初の背景

日本の縮小社会における社会経済的不安と、世界的に持続可能な生活様式を求める動きにより、現代の労働観や市場依存を否定する多様な代替ライフスタイルが生まれてる。こうした「コンヴィヴィアル（共生的）」なライフスタイルの共通点は、ガーデニング、野生食材の採取、食品の加工や共有といった自給的なインフォーマルな食の実践（IFP）である（図1）。これらのIFPの多くは伝統的な食文化に基づいているが、新しい実践や進化した方法も日々生まれている。規制の枠外にあるため法的・社会的摩擦を生むこともあるが、IFPの組み合わせはインフォーマルな食経済を構築し、食文化の維持に貢献する可能性を秘めている。しかし現代の忙しい生活では、便利さが重視され、調理やガーデニング、自家加工といった行為は企業や小売業に外注されがちである。それでもIFPは今日まで存続し続けている。



図1. 非公式な食習慣の事例

## 2. 研究の目的

食に関する学問領域では、IFPに関する研究は主に一つの実践を詳述する形が中心で、その歴史や意義、食文化への貢献に焦点が当てられてきた。しかし、IFPが共生的ライフスタイルの構成要素としていかに進化し、人々や地域社会の幸福や生活の質に貢献しているかについてはあまり明らかにされていない。多様なIFPがいかに構成され、ポジティブな関係性を築くかを理解する必要がある。IFPがなぜ今日も存続しているのか、科学的にはまだ十分に解明されていない。また、IFPが「インフォーマルな食経済」をいかに形成し、それが地域の食文化や安全保障、福祉や健康にどう影響しているかについても理解が不足している。さらに、IFPの活用や普及を促進する政策・計画の在り方も未開拓な分野である。経済的に不安定なポスト成長時代において、IFPは低環境負荷で分散的かつ持続可能な食システムへの移行に大きく寄与する可能性がある。

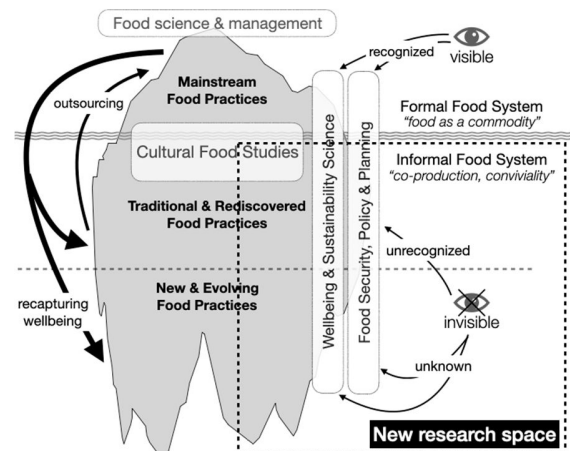


図2. 公式および非公式の食習慣研究を「冰山」として捉える—分野、関係性、そして新たな研究空間の発見

本プロジェクトで設定された研究課題は以下の通り：

- (1) 共生的ライフスタイルを送る都市部および農村部のコミュニティにおいて、どのようなIFPが実践されているか？その多様性は？
- (2) IFPを通じて食、人・コミュニティ、文化、環境との間にどのような関係が構築され、実践者はどのように幸福を感じ、価値を見出しているか？
- (3) IFPはいかにして「インフォーマルな食経済」を構成し、それが地域の食文化や安全保障にどのような意味を持ち、福祉・健康にどう影響するか？
- (4) IFPの実践を支える政策・計画をどう改善できるか？

### 3. 研究の方法

本プロジェクトでは以下の3つの方法論を採用した。

- (1) IFPに関する現地調査と調査票を用いた調査
- (2) インフォーマルな食経済とその分野横断的影響の質的評価
- (3) 共生的ライフスタイルに対応した政策および計画手法の検討

これらの手法は COVID-19 パンデミックの影響により柔軟に適用した。現地調査の制限はあったが、その分パンデミックによる社会的変化が IFP にどう影響を与えたかを評価する好機ともなった。

(1) 日本国内外の数十名の研究者によるフィールドワークを通じて、持続可能で健康的な生活を実験的に実践する都市部および農村部のコミュニティにおいて、共生的ライフスタイルの一環として実施されている IFP (インフォーマルな食の実践) の多様性とその範囲が記録された。また、日本、アメリカ、ドイツ、イタリアの4か国で4000人を対象としたオンライン調査により、パンデミック下のロックダウンが人々の食べ方、食の入手方法、IFP への関わり方にどのような影響を与えたかを分析した。

(2) 地域における IFP のマッピングは、文献レビューとフィールドワークを組み合わせた混合手法により実施され、IFP が地域経済の循環をどのように構成し、健康や幸福にどのように寄与しているかを評価した。

(3) バンコク都市部でのマルチステークホルダーによる政策開発プロセスでは、「フューチャリング (未来構想)」手法を活用し、IFP がどのように支援され、より良く実現されうるかについての理解を深めた。あわせて、ポスト成長時代における持続可能なアグリフードシステムの概念的枠組みが開発され、IFP を食システム変革の優先事項として位置づけることを目指した。

### 4. 研究成果

#### (1) フィールドワーク、事例調査、IFP の地図化

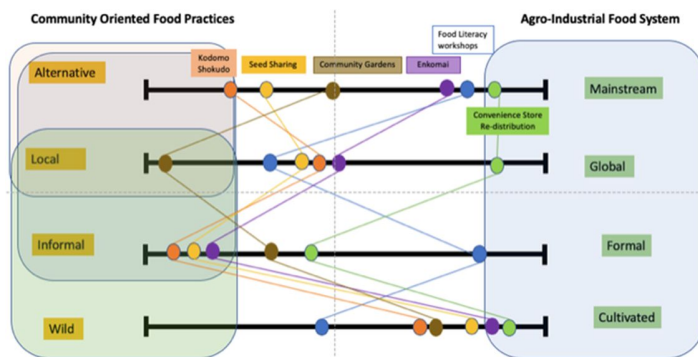


図3. 地域社会と強い関係を持っている食の実践

本プロジェクトでは、日本および他国において、山菜採取、種子の非公式管理、米の贈与、パーマカルチャー、竹林管理、空き地でのガーデニング、コミュニティガーデン、無人直売所、養蜂や蜂の生息地の創出、可食風景の創出、子ども食堂などに関する現地調査を実施した。これらの成果は、オーストラリア国立大学出版局から刊行予定の書籍にまとめる。また、関西地域における代替的・地域的・インフォーマルかつ野生的な食の実践を「みんなの食」ウェブサイト ([minna-no-shoku.org](http://minna-no-shoku.org)) を通じて可視化し、食の生産・流通の実態を把握した (図3、①)。

(2) 持続可能な農村・都市生活と IFP・政策の将来展望



図 4. KYUSHOKU2050 4 つの給食メニュー

本プロジェクトでは、将来の食の在り方について市民とともに議論を行った。タイ・バンコクでは、都市住民が技術に過度に依存しない未来の食システムを想像し、若者に料理・ガーデニング・食文化を再教育する必要性が挙げられた。このビジョンを実現するための政策提言がタイ政府に提出された(③)。日本では、未来の給食を起点に、地域の風景や将来のメニュー、IFPを含んだライフスタイルを再構築する活動が行われた。秋田県能代市と長野県小布施町の学生たちは、地域の未来の食について議論した(④)。「給食2050」展は、望ましい未来シナリオを実現するための政策議論の場となった(図4)。

(3) COVID-19 による食の変化に関する多国調査

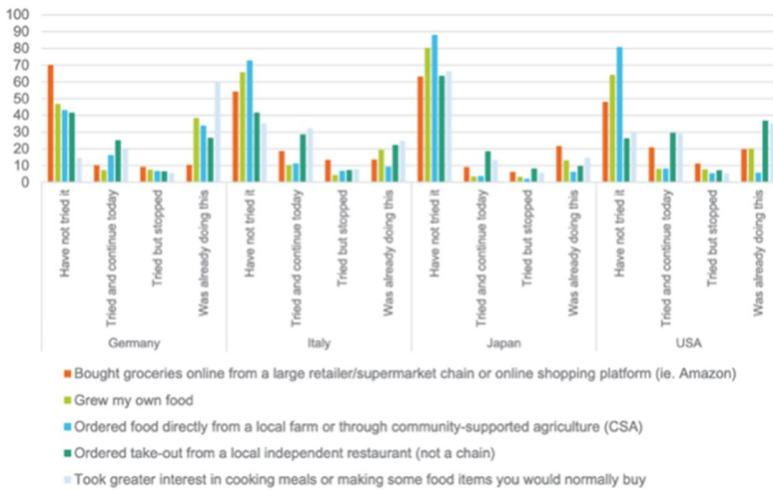


図 5. COVID-19 の流行開始以降、回答者の家庭での食習慣の変化について報告されたもの

日本、アメリカ、ドイツ、イタリアの各国で 1000 名ずつ、計 4000 名を対象に、COVID-19 によるロックダウンが家庭の食生活に与えた影響を調査した(図5、⑤)。イタリアとドイツでは厳格な移動制限があった一方、アメリカと日本は比較的緩やかな対応であった。多くの消費者が自宅での調理や加工に関心を示し、イタリアでは 32%、アメリカでは 29%、ドイツで 21%、日本で 13%が増加した。ドイツでは自宅でのガーデニング実施率が 10%増加し、イタリアとドイツでは 20%の人が地域産・オーガニック食品の摂取が増加したと回答した。

#### (4) ポスト成長型アグリフードシステムの枠組み

本プロジェクトでは、世界中の専門家と協力し、成長依存型の食システムが持続不可能な理由を検討し、代替的な食システムの構築可能性を探った(⑥)。ポスト成長型の持続可能な食システムは、「効率」より「充足」、「搾取」より「再生」、「蓄積」より「分配」、「私有」より「共有」、「支配」より「ケア」といった価値観と原則に

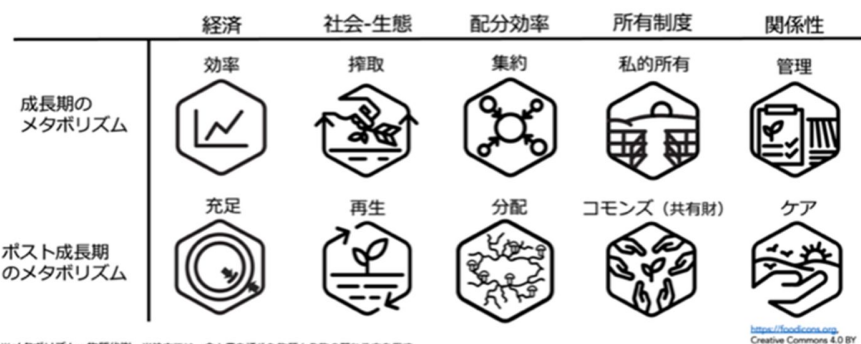


図 6. 食農システムと物質と生物の関係

基づき再設計される必要がある(図6)。この中で IFP は、必要最小限の生産、地域分散型ネットワークの形成、共有的な生産責任の創出、自然や他の種へのケアを学ぶための手段として、極めて重要な役割を果たす。

#### 引用文献

Spiegelberg, M. Kondo, C. "Mapping Complexity Behind Minnanoshoku (Everyday Food): Uncovering Japan's Informal, Wild, Alternative, and Local Food Practices Within Urban/Rural Foodscapes." *4th AP Safe Symposium Proceedings* (2022), 119-126.

マックグリービー スティーブン R., 田村 典江, ルプレヒト クリストフ D. D., 太田 和彦, 小林 舞, スピーゲルバーグ マキシミアン. 未来を知り, 遊び, 実験する—ソフトシナリオ手法を通じたフードポリシーの共創—. *環境科学会誌* 34, 2: 46-65.

Kantamaturapoj, Kanang, et al. "Constructing practice-oriented futures for sustainable urban food policy in Bangkok." *Futures* 139 (2022): 102949.

Ota, Kazuhiko, et al. "Through Forks to Fields: Backcasting Workshops in Japan for Designing Sustainable Local Food Systems." *Paul B. Thompson's Philosophy of Agriculture: Fields, Farmers, Forks, and Food*. Cham: Springer International Publishing, 2024. 33-51.

Zollet, Simona, et al. "From locked-down to locked-in? COVID-induced social practice change across four consumption domains." *Sustainability: Science, Practice and Policy* 18.1 (2022): 796-821.

McGreevy, Steven R., et al. "Sustainable agrifood systems for a post-growth world." *Nature sustainability* 5.12 (2022): 1011-1017.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 21件 / うちオープンアクセス 24件）

1. 著者名 Sioen G. B., McGreevy S., Ungvari J., Attig-Bahar F., Juhola S.	4. 巻 7
2. 論文標題 Charting the course for the next decade of sustainability research and innovation	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Global Sustainability	6. 最初と最後の頁 e46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/sus.2024.41	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rupprecht, D. D. Christoph, Nadine Gaertner, Lihua Cui, Mallika Sardeshpande, Steven R. McGreevy, and Maximilian Spiegelberg	4. 巻 -
2. 論文標題 Defining edible landscapes: a multilingual systematic review	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SocArXiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.31235/osf.io/64uvj	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Aukes, Ewert J., Laura Franco-Garcia, Kris R.D. Lulofs, Steven McGreevy, Gul Ozerol, Lisa Sanderlink	4. 巻 -
2. 論文標題 Transforming a Problem-based learning course into a Challenge-based learning course: UT M-EEM “Challenge-based Sustainability Case projects”	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 University of Twente	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 McGreevy, Steven R.	4. 巻 94
2. 論文標題 HARVESTING STATE SUPPORT: Institutional Change and Local Agency in Japanese Agriculture   By Hanno Jentsch	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Pacific Affairs	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Bustamante Mercedes, Roy Joyashree, Ospina Daniel, ... McGreevy, Steven, Zscheischler Jakob	4. 巻 7
2. 論文標題 Ten new insights in climate science 2023	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Global Sustainability	6. 最初と最後の頁 e19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/sus.2023.25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ota Kazuhiko, McGreevy Steven, Taniguchi Yoshimitsu, Akitsu Motoki, Kumagai Hiraku, Katano Nahoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Through Forks to Fields: Backcasting Workshops in Japan for Designing Sustainable Local Food Systems	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Paul B. Thompson's Philosophy of Agriculture: Fields, Farmers, Forks, and Food	6. 最初と最後の頁 33 ~ 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-37484-5_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kanang Kantaturapoj, Steven R. McGreevy, Natapol Thongplew, Motoki Akitsu, Joost Vervoort, Astrid Mangnus, Kazuhiko Ota, Christoph DD Rupprecht, Norie Tamura, Maximillian Spiegelberg, Mai Kobayashi, Sittidaj Pongkijvorasin, Suwit Wibulpolprasert	4. 巻 139
2. 論文標題 Constructing practice-oriented futures for sustainable urban food policy in Bangkok	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Futures	6. 最初と最後の頁 102949
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.futures.2022.102949	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Steven R. McGreevy, Christoph DD Rupprecht, Norie Tamura, Kazuhiko Ota, Mai Kobayashi, Maximilian Spiegelberg	4. 巻 6
2. 論文標題 Learning, playing, and experimenting with critical food futures	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Sustainable Food Systems	6. 最初と最後の頁 909259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fsufs.2022.909259	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Joost M Vervoort, Manjana Milkoreit, Lisette van Beek, Astrid C Mangnus, David Farrell, Steven R McGreevy, Kazuhiko Ota, Christoph DD Rupprecht, Jason B Reed, Matthew Huber	4. 巻 137
2. 論文標題 Not just playing: The politics of designing games for impact on anticipatory climate governance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geoforum	6. 最初と最後の頁 213-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.geoforum.2022.03.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 McGreevy Steven R., Rupprecht Christoph D. D., Niles Daniel, Wiek Arnim, et al.	4. 巻 5
2. 論文標題 Sustainable agrifood systems for a post-growth world	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Nature Sustainability	6. 最初と最後の頁 1011 ~ 1017
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41893-022-00933-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Simona Zollet, Julia Siedle, Miriam Bodenheimer, Steven R McGreevy, Caroline Boules, Clemens Brauer, Md Habibur Rahman, Christoph DD Rupprecht, Johannes Schuler	4. 巻 18, 1
2. 論文標題 From locked-down to locked-in? COVID-induced social practice change across four consumption domains	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sustainability: Science, Practice, and Policy	6. 最初と最後の頁 796-821
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15487733.2022.2127294	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Steven R. McGreevy	4. 巻 95
2. 論文標題 Book Review: HARVESTING STATE SUPPORT: Institutional Change and Local Agency in Japanese Agriculture   By Hanno Jentsch	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Pacific Affairs	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuchiya Kazuaki, Iha Katsunori, Murthy Adeline, Lin David, Altiok Selen, Rupprecht Christoph D.D., Kiyono Hisako, McGreevy Steven R.	4. 巻 292
2. 論文標題 Decentralization & local food: Japan's regional Ecological Footprints indicate localized sustainability strategies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Cleaner Production	6. 最初と最後の頁 126043 ~ 126043
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jclepro.2021.126043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zollet Simona, Colombo Luca, De Meo Paola, Marino Davide, McGreevy Steven R., McKeon Nora, Tarra Simona	4. 巻 13
2. 論文標題 Towards Territorially Embedded, Equitable and Resilient Food Systems? Insights from Grassroots Responses to COVID-19 in Italy and the City Region of Rome	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 2425 ~ 2425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su13052425	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 マックグリービー スティーブンR.、田村 典江、ルプレヒト クリストフD. D.、太田 和彦、小林 舞、スピーゲルバーグ マキシミアン	4. 巻 34
2. 論文標題 未来を知り、遊び、実験する? ソフトシナリオ手法を通じたフードポリシーの共創?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境科学会誌	6. 最初と最後の頁 46 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11353/sesj.34.46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Pongkijvorasin Sittidaj, McGreevy Steven R.	4. 巻 23
2. 論文標題 Loving local beans? The challenge of valorizing local food in the Thai highlands	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environment, Development and Sustainability	6. 最初と最後の頁 17305 ~ 17328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10668-021-01367-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 McGreevy Steven R., Tamura Norie, Kobayashi Mai, Zollet Simona, Hitaka Kazumasa, Nicholls Clara I., Altieri Miguel A.	4. 巻 5
2. 論文標題 Amplifying Agroecological Farmer Lighthouses in Contested Territories: Navigating Historical Conditions and Forming New Clusters in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Sustainable Food Systems	6. 最初と最後の頁 271-271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fsufs.2021.699694	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Calo Adam, McKee Annie, Perrin Coline, Gasselin Pierre, McGreevy Steven, Sippel Sarah Ruth, Desmarais Annette Aur?lie, Shields Kirsteen, Baysse-Lain? Adrien, Magnan Andr?, Beingsner Naomi, Kobayashi Mai	4. 巻 5
2. 論文標題 Achieving Food System Resilience Requires Challenging Dominant Land Property Regimes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Sustainable Food Systems	6. 最初と最後の頁 319-319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fsufs.2021.683544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Vervoort Joost, Mangnus Astrid, McGreevy Steven, Ota Kazuhiko, Thompson Kyle, Rupprecht Christoph, Tamura Norie, Moosdorff Carien, Spiegelberg Max, Kobayashi Mai	4. 巻 11
2. 論文標題 Unlocking the potential of gaming for anticipatory governance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Earth System Governance	6. 最初と最後の頁 100130 - 100130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.esg.2021.100130	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Vervoort Joost M., Milkoreit Manjana, van Beek Lisette, Mangnus Astrid C., Farrell David, McGreevy Steven R., Ota Kazuhiko, Rupprecht Christoph D.D., Reed Jason B., Huber Matthew	4. 巻 -
2. 論文標題 Not just playing: The politics of designing games for impact on anticipatory climate governance	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geoforum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.geoforum.2022.03.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田百助、マックグリービー スティーブン	4. 巻 87
2. 論文標題 30年後の学校給食をめざす取り組み：長野県小布施町の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 マックグリービー スティーブンR.、田村 典江、ルプレヒト クリストフD. D.、太田 和彦、小林 舞、スピーゲルバーグ マキシミアン	4. 巻 34
2. 論文標題 未来を知り、遊び、実験する? ソフトシナリオ手法を通じたフードポリシーの共創?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境科学会誌	6. 最初と最後の頁 46 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11353/sesj.34.46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Rupprecht Christoph D. D.、... Spiegelberg Maximilian、McGreevy Steven R.、Shinkai Rika、Kawai Ayako	4. 巻 3
2. 論文標題 Multispecies sustainability	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Global Sustainability	6. 最初と最後の頁 e34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/sus.2020.28	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zollet Simona、Colombo Luca、De Meo Paola、Marino Davide、McGreevy Steven R.、McKeon Nora、Tarra Simona	4. 巻 13
2. 論文標題 Towards Territorially Embedded, Equitable and Resilient Food Systems? Insights from Grassroots Responses to COVID-19 in Italy and the City Region of Rome	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 2425 ~ 2425
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su13052425	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuchiya Kazuaki, Iha Katsunori, Murthy Adeline, Lin David, Altiok Selen, Rupprecht Christoph D.D., Kiyono Hisako, McGreevy Steven R.	4. 巻 292
2. 論文標題 Decentralization & local food: Japan's regional Ecological Footprints indicate localized sustainability strategies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Cleaner Production	6. 最初と最後の頁 126043 ~ 126043
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jclepro.2021.126043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Pongkijvorasin Sittidaj, McGreevy Steven R.	4. 巻 x
2. 論文標題 Loving local beans? The challenge of valorizing local food in the?Thai highlands	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Environment, Development and Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10668-021-01367-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sardeshpande Mallika, Rupprecht Christoph, Russo Alessio	4. 巻 109
2. 論文標題 Edible urban commons for resilient neighbourhoods in light of the pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cities	6. 最初と最後の頁 103031 ~ 103031
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cities.2020.103031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 真貝理香, スピーゲルバーグ・マキシミアン, ルブレヒト・クリストフ, 田村典江	4. 巻 74
2. 論文標題 日本における養蜂の基礎データ収集の必要性: 「蜜蜂飼育届」の都道府県別書式の差から見た課題と改善提案	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 畜産の研究	6. 最初と最後の頁 921-929
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Rupprecht, Christoph D. D.	4. 巻 4
2. 論文標題 Edible Green Infrastructure or Edible Landscapes?: A Case for Co-Stewardship in Multispecies Commons	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 4th APSAFE Symposium Proceedings	6. 最初と最後の頁 79-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Spiegelberg, Maximilian & Kondo, Chika	4. 巻 4
2. 論文標題 Mapping Complexity Behind Minnanoshoku (Everyday Food): Uncovering Japan's Informal, Wild, Alternative, and Local Food Practices Within Urban/Rural Foodscapes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 4th APSAFE Symposium Proceedings	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 McGreevy, Steven R.
2. 発表標題 Sustainable Agrifood Systems for a Post-growth World
3. 学会等名 ETH Zurich (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Sturla, A., G. Guarini, S. McGreevy, S. Zollet
2. 発表標題 Clusters, chiiki, and districts- toward a definition of "biodistricts" through the lens of initiatives in Italy and Japan
3. 学会等名 International Farming System Association Italy (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Zollet, S., F. Zoll, N. Tamura, S. McGreevy, Y. Chiu
2. 発表標題 What have we learned from the COVID-19 pandemic about Resilient and Localized Food Systems? Insights from Italy, Germany, Taiwan, and Japan
3. 学会等名 Regional Studies Conference, Florence Italy (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R.
2. 発表標題 Post-growth agrifood systems: Now!
3. 学会等名 9th International Degrowth Conference Zagreb (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R.
2. 発表標題 Post-Growth Sustainable Agrifood Systems: A SSCP Research Agenda
3. 学会等名 SCORAI 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Steven McGreevy
2. 発表標題 Sustainable food system transformation: Insights from the FEAST Project and Post-growth food systems
3. 学会等名 "Transition to a sustainable food system" NWO Project (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名	Steven R. McGreevy, Christoph D. D. Rupprecht, Norie Tamura, Kazuhiko Ota, Mai Kobayashi, Maximilian Spiegelberg
2. 発表標題	Learning about, playing with, and experimenting in critical food futures using soft scenarios: Directions for Food Policy and Planning
3. 学会等名	10th Annual Conference of the AESOP, Sustainable Food Planning Group (国際学会)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	Steven McGreevy
2. 発表標題	Comments on Drivers & Outputs
3. 学会等名	FAO Workshop: Exploring Sustainable Futures Through Agricultural Foresight Exercises (招待講演)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	Steven McGreevy
2. 発表標題	Sustainable Agrifood Systems for a Post-growth World
3. 学会等名	Wageningen University, "Economic Perspectives for a Circular Food System" (招待講演)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	Steven McGreevy
2. 発表標題	Sustainable Agrifood Systems for a Post-growth World
3. 学会等名	Cambridge University, Dept. of Geography, Political Ecology Research Group (招待講演)
4. 発表年	2022年

1. 発表者名 マックグリービー, スティーブン
2. 発表標題 地球温暖化対策と食とオーガニック
3. 学会等名 第1回長野県有機農業推進プラットフォーム勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 マックグリービー, スティーブン
2. 発表標題 食から創る持続可能な社会の可能性について
3. 学会等名 現代集落セミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R, Miriam Bodenheimer, Caroline Boules, Clemens Brauer, Christoph D, D. Rupprecht, Julia Siedle, Simona Zollet
2. 発表標題 From locked-down to locked-in? COVID-19 induced changes to everyday practices
3. 学会等名 Sustainability Research and Innovation Congress 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 マックグリービー, スティーブン
2. 発表標題 フードシステムを根本的に変える：持続可能性について深く考える
3. 学会等名 4Revs リサーチギャザリング# 1 食、農、水 2021 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 マックグリービー, スティーブン
2. 発表標題 持続可能な社会のため：1.5度のフードシステムへの転換
3. 学会等名 アジアビジネスにおけるSDGs実装化 2021年度 第3回研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 McGreevy Steven R., Norie Tamura, Simona Zollet, Yu-Chan Chiu, Yu-Hua Chen, Felix Zoll, Maximilian Spiegelberg, Mai Kobayashi
2. 発表標題 Small-scale farming and local and alternative food system resilience during the COVID-19 pandemic: insights from Italy, Germany, Taiwan, and Japan
3. 学会等名 European Rural Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R, Damian Maye, Norie Tamura, Jasmine Black
2. 発表標題 Comparing agri-food policy regimes in the UK and Japan: comparative ruralism or lost in translation?
3. 学会等名 Royal Geographic Society International Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R, Christoph D, D. Rupprecht
2. 発表標題 Degrowing Japan through food-- lifestyles, lunches, and local policy
3. 学会等名 Is rural Japan sustainable? (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R, Miriam Bodenheimer, Caroline Boules, Clemens Brauer, Christoph D, D. Rupprecht, Julia Siedle, Simona Zollet, Md. Habibur Rahman
2. 発表標題 COVID-19 induced changes to everyday food practices
3. 学会等名 19th European Week of Regions and Cities (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R.
2. 発表標題 Ethical implications of transitioning to 1.5-degree food systems
3. 学会等名 4th APSAFE Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kobayashi, Mai
2. 発表標題 Love thy Robber: Exploring the Informal Food Economy of Unattended Food Stands
3. 学会等名 RIHN 15th International Symposium (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 マックグリービー・スティーブン
2. 発表標題 亀岡を変える、世界を変えるー脱炭素時代の持続可能な食ー
3. 学会等名 第31回地球研地域連携セミナー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 マックグリービー・スティーブン
2. 発表標題 戦略的に批判的な声を届ける：食からのトランジション・北信州での試み
3. 学会等名 第62回大会：環境社会学研究会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tamura, N., Shinkai, R., Kobayashi, M., Spiegelberg, M.
2. 発表標題 「いただきます」をみんなでつくろう！ 持続可能な食と農とは
3. 学会等名 How to be ethical - 楽しいエシカルな暮らしのはじめ方. Question, Kyoto, Japan
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Spiegelberg, M.
2. 発表標題 Food System Transition - Let 's find the good food.
3. 学会等名 Sustainable Living Forum Kyoto. Kyoto, Japan. (online)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kondo, C., Spiegelberg, M.
2. 発表標題 Mapping Complexity behind Minnanoshoku (Everyday Food): Uncovering Japan 's informal, wild, alternative, and local food practices within urban/rural foodscape.
3. 学会等名 4th APSAFE Symposium (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Spiegelberg, M., Shinkai, R., Ko, C.-Y., Sung, I.-H.
2. 発表標題 Tracking practices of traditional beekeeping in Taiwan and Japan
3. 学会等名 Asian Apis Association. Los Banos, the Philippines. (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tamura, Norie
2. 発表標題 The wild food basket in rural Japan-- Spreading practices in a post-growth, post-industrialized country
3. 学会等名 Global Research Forum on Sustainable Consumption and Production (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Spiegelberg, Maximilian
2. 発表標題 Engaging bee-stakeholders for a bee-friendly Kyoto: A transdisciplinary research process.
3. 学会等名 46th Apimondia International Apicultural Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村 典江・三橋 弘宗
2. 発表標題 内水面水産資源はどのように利用されているか - 高知県におけるアンケート調査から.
3. 学会等名 日本水産学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R.
2. 発表標題 Food futures in Asia: Imagining and experimenting with post-growth food procurement and consumption to redefine rural-urban linkages
3. 学会等名 Global Research Forum on Sustainable Consumption and Production (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 McGreevy, Steven R.
2. 発表標題 New settlers in a withering rural Japan: changing notions of the "good life" and prospects for sustainability
3. 学会等名 American Association of Geographers Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Aniek Hebinck, Joost Vervoort, Astrid Mangnus, Steven R. McGreevy	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 14
3. 書名 Embedding Futures in Urban Food Governance: Participatory Foresight in Eindhoven and Kyoto in Routledge Handbook of Urban Food Governance	

1. 著者名 田村典江、クリストフ・D・D・ルプレヒト、スティーブン・R・マックグリービー	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 191
3. 書名 みんなでつくる「いただきます」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

みんなで作る地域の食  
 minna-no-shoku.org  
 KYUSHOKU2050  
 https://kyushoku2050.org/ja

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田村 典江  (TAMURA Norie)  (20642705)	事業構想大学院大学・准教授    (32824)	
研究協力者	小林 舞  (KOBAYASHI MAI)  (30782297)	京都大学・大学院経済学研究科・特定助教    (14301)	
研究協力者	スピーゲルバーグ マキシミアン  (SPIEGELBERG Maximilian)	カッセル大学	
研究協力者	ルプレヒト クリstoff  (RUPPRECHT Christoph)  (90783895)	愛媛大学・社会共創学部 環境デザイン学科・准教授    (16301)	
研究協力者	真貝(眞貝) 理香  (SHINKAI Rika)  (30758818)	東京大学・大学院農学生命科学研究科・特任研究員    (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------